

<p>報告内容</p>	<p>平成27年度追加施策2件について、受託者より報告があった。 15内1⑦:公共交通の乗降時間短縮に係る調査検討 15内1⑧:歩行者移動支援システムの共通基盤研究に係る調査研究</p>
<p>WGでの主な議論</p>	<p>「15内1⑦:公共交通の乗降時間短縮に係る調査検討」について 主な議論を報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運賃收受時間の短縮化の先行事例として下記を報告 <ul style="list-style-type: none"> ①欧州における乗車券の乗車前購入と信用乗車について ②ドイツドレスデン市におけるALLFAチケットシステム:乗降口でシステム起動用のwake-up電波と車内で運賃收受用の電波を使用 ③電界型NFC(人体通信):バス内の手すりやつり革から伝搬して課金認証が可能(人体側は電池等不要) <p>主な議論:ドレスデンの方式は、新たな電波規格が必要になり、時間を要する。既存の仕組みをうまく拡張する方法が良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子固定の時間短縮に関する先行事例として <ul style="list-style-type: none"> ①電動車椅子まで自動固定が可能なカナダ製のもの ②米国Omunitrans busの簡素化したベルト固定式等の調査結果を報告 <p>主な議論:車椅子固定において、衝突時の安全性まで配慮したシートベルトのような記述もあるが、路線バスでは立ち乗り客もいるので、どのような条件設定をするか、明確にすべき。</p>
<p>今後の進め方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の指摘事項を踏まえて、最終報告に反映する。 ・追加施策の受託が1月と遅れたために、今回の中間報告は基礎的な調査と課題抽出までとなっており、さらに最終報告までも時間がない。来年度も継続した調査と具体的な検討ができるようにしたい。